

2022年1月11日『朝礼時法話～報告事項』



(1) 法話概略【108つの鐘と正月を迎えて】

今日は1月11日、鏡開きの日という事で、上げられた御餅もこの日に下げられ振舞われる年中行事です。1年の終わりには、通称・除夜の鐘が打ち鳴らされますね。今回、鐘つきに参加していた小学生の1人から、

「何で108回なんだろうね？中途半端だよねえ。」

という声が出ました。確かに、率直にそう感じるのもその数字からするとよく分かりますね。

この108つは言わずと知れた「煩惱の種類の数」とされています。その煩惱を振り払って新年を清らかに迎えようというのが始まりだそうです。私のお寺では、その煩惱を振り払うという意味合いよりは、煩惱自体を離れられない日常の自分をよく見つめ、認知して内省していく時間として行っております。

その小学生の子はよく、姉弟ゲンカをしてしまうようで、お母さんに叱られては、時に反省文を書いてトイレに貼って肝に銘じるようにしているようですが、その紙に書いた事もすっかり忘れ、ダメな事とは分かっている、どうしてもケンカを繰り返してしまうそうです。

煩惱とは、欲望だけを思っている人も少なくないようですが、あらゆる「悪い心や負の心、その行い」を指します。例えば、怒りや憎しみ、ねたみ・そねみ、嘘・偽り等は知られていますが、他にも優越感、後悔、自分は正しくて他は間違っている、心が滅入ってふさぎ込むなんて事等も煩惱なので、日常、煩惱のない人は中々いないという事にもなるでしょう。

繰り返し言となりますが、その日常の自らの煩惱をしっかり見つめて内省し、“ごめんなさいね。”と頭が下がる時間が除夜の鐘の大事な意味と言えるでしょう。

よって正月は、除夜の鐘で内省した自分を大事にして過ごす月。事業計画でも掲げているように、『「正」という字は一つ止まる』と書きますから、一旦止まって、自分自身の言動や行動をよく点検しながら関わりを深めていく、そんな年の始まりとしていきましょう。

(2) 令和4年度「職場健康診断」について

令和4年度より、これまでの産業医の個人医院での健診から、「岩手県よぼういがく協会」での健診と変わります。検診車が光寿苑にきまして、そこで光寿会全職員対象に実施されます。期日は4月4日と決まっておりますので、予定をしておいてください。仮にこの日に受けられない場合は、よぼういがく協会県南センターの施設に出向いての健診となります。また、一般健診以外にも、別メニューで乳がん・子宮頸がん・付加健診・肺炎ウイルス検査なども個別に実費で受けられます。お知らせを回しますので、周知確認を宜しくお願い致します。

(3) コロナ禍での面会対応の変更について

本日の会議によって正式決定致しますが、8日の土曜日の午後から、緊急対応で対面式の面会をストップしております。オンライン面会は受け付けております。詳細は、会議後に出されます『コロナウイルス対策会議⑧』をご確認下さい。

【(1)(3) = 光寿会理事長、(2) = 事務課長】